

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470800846
法人名	特定非営利活動法人加齢ライス
事業所名	ほのぼのほーむ
訪問調査日	平成 21年 3月 3日
評価確定日	平成 21年5月11日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1470800846
法人名	特定非営利活動法人加齢ライス
事業所名	ほのぼのほ一む
所在地	横浜市金沢区釜利谷東7-14-29 (電話)045-701-8707

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成21年3月3日	評価確定日	平成21年5月11日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 3 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 4.2 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(600,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:8年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4)利用者の概要(2 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低 61 歳	最高 87 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	中里医院、フローラルさくら歯科、金沢文庫病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ・事業所は京浜急行線金沢文庫駅西口からバスで約5分、釜利谷小川アメニティー沿いに徒歩3分の閑静な住宅地に立地している。 ・事業所独自の理念に加えて「介護十訓」を作成し居間に掲げている。内容は「目標をもって行動しよう。言葉は言霊、丁寧な言葉遣いを心掛けよう。」などの十か条で、毎朝利用者と共に唱和し、理念の実践に取り組んでいる。 ・利用者は天気の良い日や本人の気分と希望に応じて、週3~4回釜利谷小川アメニティー沿いの散歩に出かけている。このコースは自動車が入らないので、心おきなくゆつくと散歩を楽しむことができる。車いすの方も事業所の周りを散歩し楽しんでいる。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の外部評価では改善課題の指摘はなかった。外部評価の結果は管理者より全職員に報告し、周知徹底している。改善課題はなかったが、外部評価を参考に日々の支援活動の参考にしている。
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者は自己評価について説明し、職員に自己の理解できる担当項目について記入し、話し合いをした結果、管理者がまとめて自己評価票を作成した。
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は2か月に1度開催している。会議に欠席した関係者には文書で報告している。 ・運営推進会議で地域との関わりが議題となり、その結果、町内会長から花の苗の提供があり、それを事業所の前の小川アメニティーに利用者地域の方が一緒になって植えるなどの交流が生まれている。
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦情・相談窓口は重要事項説明書に明記しており、契約時に説明している。 ・ご意見箱の利用も家族に伝えている。 ・家族の来訪時に意見・要望を聞き、ホームの運営面に反映するように努めている。 ・意見や要望は受付担当者から管理者に報告し、職員間で話し合い、すみやかに解決するようにしている。
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所は町内会に入会している。 ・事業所の前の小川アメニティーには雨天以外はほぼ毎日出かけており、散歩の途中で近隣の人々と親しく挨拶を交わしている。 ・クリスマスには幼稚園から園児が来訪し、遊戯や歌を披露してくれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所は「地域の中で共にくらししている」を理念とし、これに加えて、事業所独自の「介護十訓」を掲げ、「利用者が明るく元気で快適な生活を送る」ことができるように努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・「目標をもって行動し、丁寧な言葉遣い、笑顔と思いやり」などを「介護十訓」として居間に掲げている。毎朝、申し送りの後、利用者も含めて全員で唱和し、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・事業所として町内会に入会している。 ・事業所の前の釜利谷小川アメニティーには雨天以外はほぼ毎日出かけており、散歩の途中で近隣の人々と挨拶を交わしたり、親しく声を掛けられている。 ・クリスマスには保育園から園児が来訪し遊戯や歌を披露してくれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は、全職員が自己の理解できる項目について記入し管理者に提出している。これを話し合っ管理者が纏めて自己評価票を作成した。外部評価の結果を職員に説明し、自己評価のフィードバックを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は2か月に1度開催している。会議に欠席した関係者には文書で報告をしている。次回は3月末を予定している。 ・運営推進会議で地域との関りが話し合われた。その結果、町内会長から花の苗の提供があり、それを事業所の前の小川アメニティーに利用者と地域の方と一緒に植えるなどの交流があった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・横浜市高齢健康福祉課とは連絡を密にしており、事業所で判断の難しい事柄があれば相談している。 ・地域包括支援センターで催しがあればできるだけ参加するようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・家族の来訪時に利用者の暮らしぶりについて説明している。直接利用者が電話口に出て家族と会話できるように支援している。 ・提携医による毎月の定期往診時には家族の来訪を促し、医師から健康状態について説明を受けられるようにしている。 ・小口現金の取り扱いについては、家族の来訪時に領収書を添えて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情・相談窓口は重要事項説明書に明記しており、契約時に説明し、ご意見箱の利用も家族に伝えている。 ・家族の来訪時には、意見・要望を聞き、運営面に反映するように努めている。 ・家族から意見や要望があれば、受付担当者から管理者に報告され、職員間で話し合い、すみやかに解決するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員が退職する場合は良く話し合い、その理由を理解して、家族などに説明できるようにしている。 ・利用者には寂しい思いをさせたくないのであえて言わないようにしている。利用者から聞かれた時には家族の転勤で離職したとさりげなく伝えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・管理者は職員あつてこそその事業所の運営ができると考え、感謝の気持ちを持っている。気持ちのつながりを大切にし、話しやすい、聞きやすい関係に努めている。 ・外部研修の通知は事務所に掲示し希望を募っている。また管理者から指名して職員の能力の段階に応じた研修の受講を勧めている。外部研修への参加は年間15回に及んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・横浜市高齢者グループホーム連絡会には、毎回必ず参加し情報交換をしている。昨年10月に行われた交換研修には3名の職員が参加した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居に当たり本人の状況を確認している。見学を数回行いその間家族に良く見て貰うようにしている。 ・入居後暫くは利用者の馴染みのために家族の面会の度合いを多くするよう依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者の得意なこと、出来ることをやってもらい、出番を作るようにしている。利用者は自分の担当と自覚して、料理・掃除・縫物などを分担して、家庭にいると同じ雰囲気生活しており、得意の料理で職員は教えられることもある。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者が入所希望時に、暮らし方の希望や考えを本人や家族から聞いている。 ・利用を始めてから、毎日の過ごし方について、日頃から本人や家族から、本人の思いを把握するようにしている。 ・発言が困難な場合は表情や動作を注意深く観察している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・アセスメントで収集した情報に基づいて、改めて本人、家族とよく話し合い、スタッフの意見も取り入れて介護計画を作成している。 ・月1回のスタッフ会議で介護計画の確認を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・ケアプランの見直しは3か月に1度行っている。 ・利用者の状況に急な変化のあった場合はその日の内に家族に連絡し、介護計画に反映できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・近隣の住民から認知症に関する相談があり、その都度対応している。 ・本人や家族の要望に応じて、協力医療機関の内科医が月1回訪問診療している。 ・理美容師が利用者の希望により2ヶ月に1回来訪している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・毎月第3木曜日に中里医院から往診があり、利用者の受診時には家族も同席してもらっており、家族とは情報の共有ができています。 ・歯科医は2日前にFAXで状況報告し依頼すれば往診してもらえる。皮膚科は近所の医院に通院している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・ターミナルケアについては、医師を交えて家族と話している。事業所としてはできる範囲で看取りは行う方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員はプライバシーを損ねることのないように、利用者のトイレ誘導などはさりげなく声掛けし、言葉づかいや対応には十分配慮している。 ・個人情報に関する書類は、施設のできる書庫に保管し、職員は入職時に個人情報に関する誓約書を提出している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員は利用者の気持ちを尊重し、体調にも配慮し、利用者のペースを大切にして見守り支援している。 ・散歩やレクリエーションも本人の希望に合わせ、一人ひとりのその日の状態や気分にも配慮し、その人らしい生活ができるように柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者はおやしのひげとり、タマネギむきなどの野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、お茶くみ、盛りつけ、配膳など自分の力を活かして職員と一緒にやっている。 ・食事は職員も利用者と同じ食卓を囲んで一緒に楽しむようにしている。誕生会には希望の料理を一品添えている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は原則週3回としているが、本人の希望があれば心身の状態に合わせて、足湯や夏にはシャワー浴を楽しめるように支援している。 ・入浴を拒む人には、入浴の順番の名札で分かるので、声掛け誘導し柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・職員は、利用者の一人ひとりの力量に合った、やりたいこと、できることの役割を見付け、張り合いや喜びにつながるように支援している。 ・楽しみごとで、ぬりえ・貼り絵・習字・歌など一人ひとりが生き活きと楽しく過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・利用者は天気の良い日や本人の気分と希望に応じて、週3～4回散歩に行く。 ・近くの小川アメンティーコースや花が豊富なお寺コース、花畑コースに出掛けている。お寺では池の鯉に餌をやることを楽しみにしている。 ・車いすの方もホームの周りを散歩し、楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中は玄関の鍵を掛けずに出入りを自由に行っている。 ・外出傾向のある利用者は、ホーム内の敷地の周りを歩き、職員は利用者の行動を把握し、見守り支援している。 ・地域の方や新聞配達人、地元の警察署の協力を得て、利用者の外出時の情報をいただいている。 ・居室の鍵は本人に任せている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の金沢消防署の協力を得て、夜間を想定した防災・避難訓練を年2回実施している。 ・運営推進会議で、利用者の避難について、地域代表者を通じて町内会の協力を依頼している。地域の防災訓練に参加している。 ・緊急連絡網は事務所に掲示し、災害用の非常食と飲料水を備蓄している。 		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の食材は、管理栄養士の指導のもとに、カロリー計算や栄養バランスを考えて、献立表と共に業者から調達され、美味しい食事作りに心掛けている。 ・食事は個人日誌に記録し、一人ひとりの様子を把握している。水分量の摂取にも個人個人の好みの飲物を用意し十分に取れるよう工夫している。 	○	水分摂取については個人個人が十分に取れるよう工夫をしていますが、個人別の記録を残し、職員間で情報を共有できることが望まれます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングは明るく清潔で、窓辺からは近隣の庭の梅や桃、もくれん、桜の花が眺められ、季節の移り変わりを感じながら、利用者はゆっくりとくつろいでいる。 ・壁面には手作りのおひなさまの貼り絵を飾り、利用者や職員が写真を撮り興じている。 ・毎朝、居間で、ラジオ体操を日課にしている。 		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・各居室は使い慣れた馴染みのダンス、テレビ、家族の写真や仏壇などを置き、思い思いに過ごせる居室づくりとなっている。 ・壁には自作のぬりえ、貼り絵、習字を飾っている。 ・職員が換気、室温に気を配り、利用者や毎日清掃して清潔さを保ち、居心地のいい居室になるよう支援している。 		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ほのぼのほーむ
(ユニット名)	1ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市金沢区釜利谷東7-14-29
記入者名 (管理者)	熊谷 栄美子
記入日	平成 21 年 2 月 18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で共にくらししている」この事を大切にしたいホームの独自の介護十訓を作っている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	解かりやすい言葉、表現を用いた「介護十訓」を毎朝全員で唱和し援助内容・方向性の共有をしている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来訪時、目に付きやすいリビングに掲示し、家族の方々にも解かりやすい文章で明示している。地域の方には、運営推進委員会を通して情報の発信を心掛けている		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出・退勤時・買い物・利用者さんとの散歩の付き添い時に、積極的にこちらから挨拶の声掛けをしている。馴染みの方も出来ている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会・地域の祭礼・幼稚園児とのクリスマス交流会・ご近所のカラオケ同好会・フラダンス会の方々との交流も定期的となってきた		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域からの相談事には、その都度丁寧に対応をし、必要があれば適切な相談窓口を紹介している</p>	○	<p>ホームの生活を理解して頂き、安心した生活の場で暮らしている様子を見て頂く中から、在宅の高齢者さんからのニーズをお聞きしていきたい</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>今できている事を自己点検し、「井の中の蛙」にならないように、常に「問題意識」を持ちながら解決に向けたカンファレンスやミーティングの場を持っている</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議も定例化してきている。評価については真摯に受け止めている。改善への要望へは「出来る範囲」の事から実行している</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ホームで判断が難しい事柄であれば、市町村の窓口にも出向いて相談をしている。判断を曖昧にすることの無いよう努めている</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>事業形態の性格上、この事についての「研修」は既に何回か受講し理解に努めている。家族への情報提供も行っている。必要時具体的に支援が出来るように用意はある。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>スタッフ会議の場で、「虐待の事例」学習を行っている。どんな事でも記載出来るノートを設置。管理者・現場主任・ケアマネが話を聞ける状況の環境整備を心掛けている。入浴時に身体状態の変化への観察も行っている。</p>		

ほのぼのほーむ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>色々な機関からの「研修」案内の内容を検討し、段階に応じたスタッフへ受講を勧めている。研修後には「報告」としてフィードバックをしている。日々の中でも必要時はスーパーバイズを行っている</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県、市主催の認知症高齢者会議には、情報交換の場として、必ず出席をしている。交換研修で相互意見交換が出来る</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスの大きい職種なので、溜め込まないように日々の中で話しが出来る時間を設けている。希望休暇を優先しリフレッシュへの協力をしている。又、夏、冬に食事会での交流を行っている</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>頑張り、日々の努力に対しては、評価を伝えている。又賞与等で、形として評価に繋げている</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回の不安は十分配慮して、受け止める機会を多く持ち、何度でも、同じ事でも繰り返しながら対応をしている。スタッフ間でも同じ対応が出来るように申し送りをしている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>どんな事でも話せる雰囲気を中心掛けて、必要な情報は適切に提供をしている。来訪時はいつでも歓迎し、又、電話での相談にも常時受けられる体制をとっている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個別性を大切にして、優先順位を付けながら対応をしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	不安の無いよう、何回か来所して頂き入居に繋げている。共同生活の場に慣れるまでの精神的サポートを家族さんには訪問の回数を多くお願いしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の持っている出来る力を引き出しながら「教えて頂く」姿勢を示しながら、出来た事には共に喜び合う素直な気持ちの表現を日々の中に出しながら家庭的な場づくりをしている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族さんの現状も受け止めながら、よい方向になれば、共に喜び、不安な状況はどう解決していくかを共に情報の交換をしながらとしている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活歴、家族歴から関係を理解した事柄をスタッフへ情報として提示し共有をしている。安定に繋がることを双方の目標にしている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その人の人生の中での価値ある物として「心の寄りどころ」として大切に有ることを認めている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の性格を理解し、良い関係が出来る間柄をスタッフが把握しながら、居心地の良い場面をふやしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了時に、相談出来る間柄にしている。相談時は丁寧に受け答えてる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別性を重視し、一人一人の希望、意向を聞き取りしている。言語での確認が困難な時は、表情等で探求している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等の情報を入居時にお聞きし「本人のこだわり」等への把握を行っている。アセスメントへ情報を記載		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のケアの中で、気付いた事等をミーティング・ケアカンファレンスで情報の交換をすることで、一人の気づきから大勢の気づきへと繋げている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族さんより直接お話を聞く。又、スタッフから関わりの中から意見を聞きながら、ポジティブな介護計画の作成をしている。モニタリングで計画を更に見直しをしている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化、あらたな問題がある場合はその都度、ケアカンファレンスでスタッフからの情報を掌握し計画の見直しをしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記載をしている。記録の中から、共有すべき事は連絡ノートに転記。ケアカンファレンス時に意見交換をして、介護計画書に反映をさせている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別に柔軟に対応をしている。(外出時の理事のボランティア依頼など)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	趣味の発表の交流の場としてボランティアさんの訪問があり。救急法などの実践講習を消防署の方に指導を受けている	○	利用者の意向を伺いながら地区センター等での文化活動に参加を検討していきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居時や施設替えの時には行っている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	一事業所として解決していくのでは無く、より専門的分野に付いては、不安が残らないよう且つ満足して頂けるよう相談に出向き助言を頂いている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の定期往診日には主治医の受診が出来ている。家族の付き添いもあり、リアルタイムで情報の共有が出来ている。状態によっては専門病院への紹介をいただいている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門病院への通院が出来ている。変化時は管理者やケアマネも付き添い、介護に向けた注意点や指示を受けている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	近隣に協力をして頂いている看護師さんが居る。気楽に相談が出来ている		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医師・病棟看護師・医療相談室で相談をして来た経験がある 今後必要であれば十分連携は図れる		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化は早めに伝えながら、家族・ドクターを交えホームで出来る限界の理解をして頂きながら、方向性を話し合っている。急変時のマニュアルも有り、提示している。スタッフにも情報を伝え、緊急連絡体制の確認もしている		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ドクターを交え現状ホームで出来ることの限界を伝えている。曖昧にしないことで、混乱を招かない。体制の整備は出来ている。反復が必要。	○	ターミナル期を迎えた援助には未経験者が多く、今後シュミレーションをしながら準備を進めていきたい
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人が一番不安にならないよう、家族さんとの話し合いで、タイミングを見ながら勧めている。必要な情報は家族さんの了解を持って提供をしている。安心の優先を考慮して行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	親しみ安さが馴れ合いな対応、強いては傷つける言動に繋がりがやすい事を、常時喚起をしている。個人情報の取り扱いの書類は施錠で保管をしている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	話しの腰を折らない、決めつけ・押しつけをしないで最後まで話が出来るよう待つ姿勢を大事にしている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大事にしている。何をしたいのかを伺う習慣をスタッフがもつことで、はっきり利用者から〇〇がしたいに繋がっている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	介護十訓にもうたっている。希望により訪問の美容師さんも来られる。お化粧品や衣類を選ばれるので、買い物時付き添いをしている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の彩りや季節感のある食材選びをしている。好き嫌い無く完食されている。食材を切ったり、並べたり個々の状況に応じて一緒に食事づくりが出来ている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	スーパーでお買い物をして頂く。選ぶ楽しみを持って頂いている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	現状おむつ対応者は無し。排泄のパターンが習得出来ている。全員トイレでの排泄。声掛けのタイミング・見守りで行うことができています		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回のペースで入浴を実施している。人員の配置の関係で現状を理解して頂いている。入浴時の安全を最優先と考えている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心、安眠が出来るように採光・空調等での環境整備をしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活感覚を大切にしながら、お掃除の好きな方。お庭掃除が好きな方、洗濯干し・たたみへと個々に選んでの役割が達成感に繋がっている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物は個々の状態に応じて金銭の支払いまでを行っている。毎月お小遣い程度の管理もされている方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中庭はいつでもお好きに出ることが出来る。近隣の小川添いの散歩コースへは、週3～4日、季節感を味わいながら「何の花が咲いているかな」とお楽しみ散策ができています		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行かない所には、「行事」として計画をしている。それぞれの希望に添いながら年間を通しての計画としている。家族さんの付き添いへのお願いをしながら一緒に外出ができています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話を掛けられる方・取り次ぎが必要な方にはお手伝いをして家族の「声」を聴かれています。手紙も同様。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	リビングルームや、ご自分のお部屋で気軽にお話されている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、スタッフ間での確認事項とし、定期的話し合いをしているニュース等で問題になれば時期を逸さないうちにスタッフ会議で喚起をおこなっている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は一切どこも施錠はしていない		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に人数確認はしている。長時間居室に居ることの無いようにレク・お茶へのお誘いの声掛けをしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	縫い針・鉋は使用前・使用後に本数の確認をしている。元の場所に納めることの習慣		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒・窒息・誤薬・徘徊等の事故防止マニュアルの反復確認。火災については地域の消防署とのれんけいで、訓練の実施をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当・初期対応については、研修での受講内容の報告と全員に実践指導。又、金沢消防署員による救急法・AEDの実践指導をうけている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中・夜間時を想定して金沢消防署員の方の立ち会いで、利用者も一緒に避難訓練を行っている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族さんには、「今あるリスク・今後予測出来るリスク」について具体的に話し合いをしている。今までの生活出来ている力を尊重しながら今後の方向性に付いて最善を払い援助していく誠意の姿勢を伝え理解を頂いている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル・介護日誌と各人の記録は一元管理をしている。変化時は早急に主任へ報告→管理者に報告。速やかに指示を受けられるような体制が整備が出来ている。日頃の状態を知ること、変化時を捉える観察力をみがいている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的は定期往診時の説明で理解が出来ている。受診記録の回覧を行っている。服薬の効果や変更についての相談も出来ている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材選び・献立。水分量の把握・レク時の体操の工夫ができています		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの実施。就寝前にはポリデントでの洗浄を行っている。必要時訪問歯科医の指導も受けている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立で、カロリーバランスが摂れている。水分量も個別に補給が出来ている。お茶・コーヒー・紅茶等のお好みで		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	排泄後、食事前、外出から戻ったら手洗い・うがいの声掛け。インフルエンザの予防接種。スタッフ・外部者が菌を介在しない玄関口での消毒実施		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具ふきんは毎日キッチンハイターで消毒・食材に付いては種類別に保管。冷凍・冷蔵での保管。生ものは時期により「火」を通した献立にしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りにはプランターを置き、季節感のある花を植えている。玄関口よりバリアフリーになっている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、家庭的なのある物を置き、静かにBGMを流している。普段の生活感を大事にしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さんの毎月の作品を展示、行事の写真等を見ながら「その時々思い出」に話が進んだ光景を見ることができている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使い慣れた物、大切にしていた物、お好きにしていた物、家族の写真等を居室に置くことで、安心して穏やかに過ごして頂いている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計・湿度計で空調の調整をしている。空気交換もこまめに行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手摺りの設置で安全な生活環境がある。それぞれの身体機能に応じた使用で、自立行動が出来ている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・浴室・居室の入り口には表札や個人が作成した思いの作品で表示ができ混乱無く生活の場になっている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇・ベンチを置き外に出る楽しみづくりをしている。又、生活の場として洗濯物干しを置き、洗濯物を干したり、取り込んだり日常生活の場がある		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ほのぼのほーむ

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほほ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほほ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほほ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほほ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

安全な環境の中で、個々の能力に応じた役割をして頂くことで、生き生きとした表情に出会うことが、スタッフの力になります。